

聴覚障害児指導法

特別支援教育コース 加藤哲則

1 授業の基本情報

対象授業の科目区分：特別支援教育専門科目

科目名：聴覚障害児指導法

担当教員名：加藤哲則

登録学生数：21名

授業概要：聴覚障害児の言語指導・学習指導・自立活動について理解し、今後の聴覚障害児教育の指導の在り方について議論し、指導計画の立案や指導案の立案と模擬授業を行い、実践的な指導力を身につけることをねらいとした。

2 授業研究・授業評価の内容

この科目は今年度の学部改組に伴い再課程認定を受けた科目で、授業担当が今年度から変更になった。また今年度からの改訂された特別支援学校学習指導要領の完全実施に伴い、受講学生が卒業後に教員として現場で活躍するためには、学習指導要領に対応した新しい学力観を具現化する力が求められると考えた。

そこで、授業内容を従来のものから大きく変更した。従来は理論的な内容が中心であったが、より実践的な内容を重視し、児童生徒の実態把握やそれに基づく指導支援計画の立案、各教科・領域の実践的な授業づくりや指導案の作成を通じて、実践的な指導力を高めることをねらいとした。授業全体の構成は、前半を理論的な内容とし、後半を指導計画の立案や指導案の作成、模擬授業の実施などの実践的な内容とした。また学習方法も現行の学習指導要領に対応するために、受講生自らが主体的・対話的な深い学びを経験しながら、教員になった際に児童生徒の主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善を実行できることを念頭に置いたものに変更した。特に後半部分の指導計画や指導案の立案に関しては、教材として最近の特別支援学校(聴覚障害)の全国研究大会の指定授業と公開授業の指導案を用いて、それらの授業を自分ならどのように主体的・対話的な深い学びの実現に向けて改善するのかといった視点で、自ら問

題点を見つけ、その問題をどう解決するのかを経験させた。さらに各受講生の考案した解決策を受講生全体で共有し、他者の新たな視点を取り入れるよう工夫した。ただし、今年度はCOVID-19の感染拡大によるオンライン遠隔授業での対応となったために、全体での模擬授業は実施できなかった。

授業評価として、従来の授業評価に加えて、独自のアンケート項目を用意して実施した。独自の項目は、①「この授業であなたが教員になるために役に立つと思うことは何か」、②「オンライン遠隔授業形式において主体的・対話的な深い学びの授業ができたと思うことは何か」であった。回答は、自由記述形式で、渋滞の授業評価とは別に Moodle 上で回収した。受講生 21名のうち、回答があったのは 20名であった。

①の教員になるために役立つと思うことへの回答では、「教育実習の前に特別支援学校(聴覚障害)の指導案の書き方を知ることができて良かった」、「現場の授業で使う教材について指導案を通じて知ることができた」、「実際の現場で行っている子どもへの個別の配慮について、指導案をとおして知ることができた」という好意的なものが多くあった。②の主体的・対話的な深い学びについては、「自分 1人で考えて指導の改善点だったが、他の人の考え方に触れることで自分と違った見方がいろいろあって、考え直すことができて良かった」、「自宅で 1人考えていると解決策を考えるのには限界があったが、全員の考えを読むことができて、参考になった」という好意的なものも多くあった。一方で、「遠隔ではなく直接質問をしてみて、もう少し詳しく訊きたかった」という回答もあった。

これらの結果から、授業内容の変更については概ね好意的な評価が得られたが、オンライン遠隔形式での対話的な深い学びの実現には至らないことが明らかになった。現在の With コロナの状況下での授業の在り方については、改善を続けていかなければならないと考える。